

令和4年度 小林市立東方小学校 自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価（4：期待どおり 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

学校経営ビジョン 「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的・組織的に参画する学校経営を実施する。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	数値目標	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価				関係者評価	学校関係者評価のコメント	
				教職員項目	教職員総合	保護者項目	保護者総合			
知育	学力の向上	1 ICTの効果的な活用 ・日常的なタブレットの活用、オンライン授業 ・タブレット持ち帰りによる家庭教育の充実	タブレットP C各学年週8時間以上 オンライン学習年3回	日常の授業で頻繁にタブレットを活用している。週8時間は、ほぼ達成している。オンライン学習については、県理蔵文化財センターの発掘現場とついでに授業を行った。また、SDGsに関するESD教育を推進し、キャリア教育支援センターと連携して生活科・総合的な学習の時間の年計見直しを図ることができた。その他、欠席児童へのオンライン授業も行った。夏休み・冬休みに家庭へのタブレット持ち帰りを実施し、長期休業中の課題に活用できた。	3.8		3.7		3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日でタブレットを使っている授業を見させてもらいました。授業の幅も広がり、すごいなと感心したところでした。その上で、「書く」ことの大切さも大事にしていってほしいと願います。 ・非常に良い取組をしていると思います。特に読書推進は学力の基本となるので継続してほしいです。将来必要なスキルになるので今後も力を入れてほしいです。 ・タブレット学習については、家庭教育学級でも学校でどのようにタブレットを使っているのか、また中学生になって小学校での学習がどのように生かされているのか、参観日とは違った視点から見ることができ、とても良かった。 ・デジタル田園都市国家構想戦略が2023年から5か年の新たな総合戦略として始まる中、タブレットを活用していることは今後生きてくるので頑張ってほしい。読書により、色々な考え方ややり方等を知ることができ、自己啓発につながると思うので多くの本を読んでほしい。 ・校長先生をはじめ、算数の授業のサポートに入られるということで、子どもの分からない→嫌いとなるのが減ると思います。忙しいと思いますが頑張ってほしいです。
		2 読書の推進 ・よみろ会、学級担任等による読み聞かせ ・家庭読書の推進 ・本の紹介	家庭での読書（30→40%） 本の紹介（月2回）	夏休み・冬休み期間中に、P T A文化部と協力して、「家読（うちどく）」という企画を実施した。家庭からも児童からも好評を得た。また、図書館まつりや読書ビンゴを開催したり、給食時の放送で図書委員会が本の紹介を定期的に行ったりしたことで、貸出冊数が増加傾向にある。	3.8		3.7			
		3 日々の授業の充実 ・個に応じたきめ細かな指導の徹底 ・主体的・対話的で深い学びの充実	学びたい度（5月→10月プラス5%） 地域、社会に関する話（月3回）	主体的・対話的で深い学びに関するアンケートによる実態把握や校長による国語の模擬授業などを行い授業改善を図った。夏季休業中に、総合的な学習の時間と各教科を横断的にリンクさせる年間計画デザインを行った。校内の主題研修が研究主任を中心に充実し、その結果が日々の授業に反映されている。更に、音楽と体育の教師間の交換授業や、管理職等が週5時間程度、算数の授業のサポートに当たること、下位層の学力向上を図りたい。	3.5		3.4			
		4 地域人材、素材の活用及び一部教科担任制 ・関係機関、英語専科との連携 ・東方地区のキャリア教育、文化財の活用	地域人材、素材の活用（各学年年3回以上）	英語専科教員、A L Tによる授業の充実を図っている。学年部での合同授業により、T T形式での授業実践を進めた。地域資源である二原遺跡を活用した授業、外部の有識者（県理蔵文化財センター、シンクオブアーズ、宮崎日日新聞小地局）を活用した授業も行った。また、外部人材を活用したオンライン授業や講話など積極的に実施している。（SDGsに関する授業、新聞記事の読み方授業等）	3.5		3.6			
徳育	心の教育の充実	1 道徳科の指導の充実 ・心を耕す授業の工夫、体験の場の工夫 ・デジタル教科書の有効活用	道徳科の時間の充実	道徳科を中心に、日々の学校生活全般において「道徳性」を養うように指導を行っている。道徳科では、デジタル教科書を有効に活用したり、道徳ノートに学びの足跡を残したりすることで、道徳的な判断力や心情、実践意欲が高まってきている。	3.2		3.5		3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、なかなか支援学校との交流が図れない中、オンラインなどを利用して少しずつ交流できてよかったと思います。制限がたくさんある中で、先生方の取組には本当に頭が下がります。 ・大人になって引きこもりなどの精神的な病気が増えています。子どもの内に正しい考え方や正しい人間性を身に付けられるよう教育をお願いします。 ・いじめに関しての評価が職員に比べ保護者の評価が低いことから、何からの問題が0とは言えないのではないかなと思う。ただ、親の子育てに関する不安から考えすぎる保護者も見受けられるのではないかなという部分もある。 ・コロナ禍での活動も3年になり、制限もありますが、東方に支援学校があることが生徒達に大きなプラスになっていると思います。今できること、今しかできないことを頑張ってほしいと思います。 ・「どこでも博物館」について、宮崎までは、親が忙しいとか興味がないとかで足が遠のきますが、来ていただいたことで見て触れて質問したりと、貴重な体験をさせてもらい思い出に残ると思います。また、支援学校もですが、須木小さんも参加され、嬉しく思います。
		2 定期的な教育相談の実施と見届け ・ラポートフォーラムの充実 ・全職員で行ういじめ・不登校対策の徹底	いじめ・不登校の未然防止100%	本年度：いじめ0件、不登校傾向0件 市教委、チーフコーディネーター、病院に早めに相談し、学校全体で支援体制を整え、保護者とも連携できている。校内支援体制については、月1回の人権アンケートやラポートフォーラムにおいて、児童の状況の共通理解を進めるとともに、場合に応じて臨時の支援委員会を開催するなど充実している。いじめ・不登校の未然防止100%を達成することができている。	3.7		3.3			
		3 異学年交流や支援学校との交流による連帯感の育成 ・集会活動、交流給食、ふれあい交流等	ふれあい交流100%実施	支援学校との交流については、コロナによる制限がある中、オンライン及び実際の交流を進めている。体育大会は合同での実施ができなかったが、「どこでも博物館」については、支援学校も参加できた。また、持久走大会も合同で実施でき、連帯感を深めることができた。	3.4	3.5	3.8	3.5		
		4 時と場に応じたけじめある行動と危険予知能力の育成 ・完全無言、右一静歩 ・完全無言、右一静歩、A B C運動、避難訓練等	完全無言、右一静歩（定着率100%）	運営委員会が作成した「かみあり」の合い言葉のもと、完全無言・右一静歩・挨拶・立腰指導を全校で取り組んだ。今年度は特に、朝のボランティア活動により、学校の環境美化が図られている。	3.6		3.6			
		5 自他の生命やきまりを守る指導の徹底 ・安全な登下校指導 ・施設の安全点検	安全な登下校施設、設備の安全点検（100%実施）	通学路点検を実施するとともに、集団下校や地区児童会などを通して安全な登下校ができるように指導してきた。本年度も児童に予告しない避難訓練を実施し、危機意識を高め、自ら命を守る態度を育てることができた。	3.6		3.5			
体育	体力の向上	1 体力の向上 ・体育の授業の充実と運動量の確保 ・三校合同大運動会の充実 ・持久走、なわとび運動の推進	体力テストの前年比アップ	令和3年度と令和4年度の体力テストの結果を比べると、全体的に体力の向上がみられる。特に柔軟性、瞬発力の値が向上している。三校合同運動会では、コロナ禍の影響で支援学校が参加できなかったが、持久走大会には参加でき、交流を深めながら充実した大会が実施できた。次年度の体育大会は5月に実施予定である。	3.4		3.6		3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切って5月に運動会を変更してもらえてよかったです。小体連など今年も参加できてよかったですが、もう少し事前練習などに取組む時間をとればよいなと感じました。 ・最近、子どもの体力不足が全国的に問題になっているようです。体が基礎になりますので、体育の授業や運動会やマラソン大会も充実したものにしてほしいです。 ・異年齢で休み時間に遊んだり、仲がよいことが東方のよいところです。体力づくりをしながら心の教育にもつながっていると思います。 ・自分の健康は自分で守れる体力づくりに励んでほしいと思います。人の話を聞くことにより、自分の考えももてると思うので、頑張ってほしいと思います。 ・外で子どもの声がすると楽しい気持ちになります。東方の児童は、学年関係なく遊ぶところがよい。 ・むし歯は治りません。治療100%を望みます。
		2 運動を楽しむ態度の育成 ・昼休み時間の外遊びの奨励	外遊び定着度100%	昼休みに運動場で同学年や異学年の児童と仲良く遊ぶ姿が多く見られ、おにごっこやボール運動など様々な運動に親しみ、日常的な体力向上や肥満の解消につながっている。	3.3		3.5			
		3 立腰指導の徹底 ・授業開始・終了 ・時と場に応じた指導	話を聞く態度の育成 立腰100%	首段の授業、集会等とおして定着を図っている。児童運営委員会のメンバーも呼びかけを行っている。長い時間姿勢を直すことができない児童がいる。今後も継続した指導が必要である。	3.3		3.7			
		4 健康の保持増進 ・むし歯治療、フッ化物洗口の推進 ・歯磨き指導の徹底 ・感染症予防	むし歯治療100% フッ化物洗口100%実施	コロナ禍の影響で、フッ化物洗口が実施できない期間があった。虫歯治療については、保健体育部を中心に啓発を図っている。現段階での虫歯治療率（60%）は昨年度より治療が進んでいる。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、感染対策を徹底してきた。児童のマスク着用は100%で、手洗い、消毒も定着してきた。今後も継続して感染症予防に取り組んでいく。	3.3		3.7			
食育	食育の推進	1 食育週間の実施 ・年3回	食育チャレンジ週間の各家庭での実施100%	5月「食育にチャレンジ」、8月「食の贈り物in夏休み」を実施した。熱心な取組が見られ、食に関する意識を高めることができた。3月の遠足で「食育にチャレンジ」等を実施予定である。家庭もよく協力していただいております。	3.3		3.6		4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもいろんな給食を工夫しておいしく食べさせてもらい感謝一杯です。これからも小林市の生産者の生の声を聞くことで、食への感謝の気持ちを大切にしていきたいです。 ・食育もしっかりした体づくり、脳の発達にも大事です。バランスのとれた栄養と適量を考えて対応してほしいです。 ・保護者の方に来ていただき、食の大切さを知る取組はとてもよいと思う。これからも、そういう地域との関わりを大切にしていきたいです。 ・食生活に関する意識を高めることは大切なことと思うので、続けてほしいと思う。 ・食育→SDGs ウクライナ問題 値上げ値上げで食費をけずる家庭もあるようです。給食は有り難いです。
		2 地域への愛着につながる食育指導 ・郷土料理・地産地消を取り入れた調理、体験活動		肉牛農家の保護者（森田さん）に協力していただき「給食感謝集会」を12月に実施予定でした。講師の出産から飼育する過程を写真や実際の使用器具等を用いて、分かりやすく話していただいた。実感を伴う学びとなり、地域への愛着につながった。	3.0	3.4	3.6			
		3 生産者への感謝の気持ちの育成 ・生活科、こすもす科、道徳科等による関連指導		生活科やこすもす科、道徳科と関連させて、生産者への感謝の気持ちを育てる指導を行っている。本年度は、給食センターとのオンライン授業が実施でき、給食を作る様子やセンターの方々の思いなどを学ぶことができた。	3.7		3.6			
		4 肥満対策 ・食に関する研修や授業等の実施	朝食、残食ゼロ 外遊び定着100%	各学年残食を減らす努力を行い、バランスの良い食生活指導を徹底している。6年生がSDGsと関連づけて全校残食調査と表彰を行った。	3.5		3.5			
その他	学信校頼づさくれる	1 働き方改革による風通しの良い職場環境づくり ・全職員で知恵を絞り、汗をかき、喜ぶチーム意識	服務規律の遵守100%	コンプライアンス通信の配付や日々の声かけ、研修等により、教職員のコンプライアンス意識は高く維持されている。職員同士のコミュニケーションが円滑に行われ、風通しの良い職場環境が構築されている。	3.8		3.6		4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ集まらない中ではありますが、150周年に向けて前向きに、地域・先生方・保護者一体となりこれからも盛り上げていけたらと思います。ご苦労様でした。 ・子ども達が将来立派な大人になるよう、これからも先生、保護者、地域の方と一体になり、相談・協力しながら学校運営を進めていきましょう。 ・運動会をはじめ、色々な行事に関しても、たくさん保護者の方が協力していることを新聞等で知り、とてもよい環境だと感じています。 ・コロナ禍で交流も少ない中、学校便りや宮日等が生徒を知る手段と考えます。 ・宮日に載ると子どもたちだけではなく、親や祖父母まで嬉しくなるので、機会をつくってください。子どもの本当の気持ちをわかってあげられるので、俳句や詩はよい。
		2 学校の支援体制の確立 ・学校運営委員会、青少年育成市民会議、K S S V C等との連携	各委員会100%実施	本年度は学校運営委員会は予定通り実施できたが、青少年育成市民会議は実施できていない。学校に対する貴重なご指導、ご助言をいただくことができた。K S S V Cやキャリア教育支援センターと常に連携し、協力関係を深めている。	3.5		3.4			
		3 魅力ある参観授業と学級懇談会の実施	授業参観率85% 学級懇談率80%	本年度も予定していた学級参観日すべて実施し、授業参観率、懇談出席率が85%を超えており、保護者の学校に対する協力体制ができている。	3.4		3.5			
		4 作品募集への積極的参加 ・宮日新聞等への投稿		宮日新聞に俳句や詩、作文等を積極的に投稿している。掲載された作品数は、15件を超えている。今後、さらに児童の作品等を積極的に投稿していきたい。	3.3		3.5			

次年度の方向性についての校長所見

- 日常的なタブレットの活用やオンライン授業など、ICTを効果的に使いながら主体的・対話的で深い学びを目指した授業を展開できた。今年度はタブレットの持ち帰り学習ができ、ICTの活用が進んだ。次年度は、基礎学力の定着や探究型学習のさらなる充実を図りたい。
- 今年度は、P T A文化部と連携した「家読」が実施でき、児童の読書習慣が向上した。図書担当と図書協力員との連携による様々な取組により貸出冊数が増えた。次年度も継続した取組を行い、児童の読書習慣や読書・多読等の読書スキルを身に付けさせたい。
- 全職員の共通理解による児童への声かけや外部機関との協力により、不登校やいじめ、問題行動を早めに解消することができた。次年度も継続して、心のこもった挨拶やボランティアについて、家庭や地域とも連携しながら地域ぐるみで実践していきたい。
- 体力テストの分析結果をもとに、中学校と連携したサーキットトレーニング等の継続した取組を実施できた。次年度も全校児童の外遊びの奨励により肥満傾向や運動不足の児童の解消に努めたい。立腰指導についても継続的に指導していく必要がある。
- 家庭と連携した年3回の食育週間や給食感謝集会、更にはSDGs等の取組により、食に関する意識を高めることができた。次年度も継続した取組を通して、更に食に関する意識の高揚を図ってきたい。
- 風通しの良い職場環境が構築でき、全職員のチーム意識の醸成や働き方改革を推進することができた。次年度も継続して、学校HPや新聞等へ積極的に情報発信し、保護者や地域と連携して令和6年度実施の150周年記念式典に向けた準備を進め、信頼される学校づくりに繋げていきたい。